

**公益財団法人かめのり財団**  
**令和3（2021）年度事業計画**  
2021年4月1日～2022年3月31日

## I 基本方針

定款にうたわれる3つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等  
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を図る。

## II 重点施策

弊財団の「次なる10年の方針」に沿って若い世代の育成について以下の点を重視した事業展開を行う。

- 前向きにチャレンジし続ける「かめのりスピリット」をもつ若い人々の育成
- 異なる文化の人々と信頼関係を築き協働できる若い人々の育成
- ゼロから考え創る力をもつ若い人々の育成

また、若い世代が自ら育つ環境づくりのため、次の点を考慮に入れた事業の実施に取り組む。

- アジア・オセアニア地域、特に中国、韓国、東南アジアを理解する日本の青少年の育成
- お互いの理念や目的を尊重し、協働できるパートナーとの事業展開

**A 奨学事業**（日本とアジア地域の懸け橋、特に高等教育レベルのグローバル人材の育成をめざす）

### 1) 高校生交換留学支援事業（長期）

本事業に関しては、過去の事業参加者の追跡調査をおこなう。

### 2) 大学生留学支援事業

かめのり大学院留学アジア奨学生を新規に3名採用し、計7名の学生に支援する。奨学生には月額20万円を支給し、春にはオリエンテーション及びOBOGを交えた懇談会、夏に大学院生の研修交流会を行い、より奨学生との面会の機会を増やし、サポートの強化を図りたい。

**B 国際交流事業**（異文化理解の学習実践の場として、特に日本人中高生への交流機会の提供を重視する）

### 1) 青少年交流事業

コロナ禍で未だ海外への派遣、国内での受入事業が難しい状況である一方、研修事業はオンラインや対面による事業の実施を検討したい。また、海外渡航が可能になった段階で、海外との派遣・受入の交流事業を安全かつ健康に留意して再開したいと考える。

自主事業として日本の青少年を対象とする事業（公社）日本ユネスコ協会連盟の高校生カンボジアスタディツアー、（公財）AFS日本協会のアジアへの中学生交流プログラム（派遣）、（独）

国際交流基金日中センターとの中国への高校生短期派遣事業（共催）を実施する。あわせて、かめのり財団独自の事業として日本とアジアからの大学生を対象とした国内研修事業「かめのりカレッジ」を実施する。

また、2020年度パイロット事業として計画していた「東南アジア高校生招へい事業」を国際交流基金関西国際センターと共催で実施するとともに、「高校生ワールドハピネス会議」（武生東高校）を高校生ワールドハピネス会議事務局とともに実施したい。

国際交流助成事業においては、2020年度実施した緊急支援助成を今年度も継続し、特に日本国内における外国人支援活動への助成や留学生支援助成を中心に行う。加えて、日本国内の多文化共生を推進する活動やその人材育成への支援を検討する。また、助成事業の一環として、東南アジアにおける人材育成の支援活動の基盤整備やその担い手となる人材育成を検討するために、ベトナムにおけるNGO人材に関する調査を行う。

## 2) 海外日本語教育サポート事業

（独）国際交流基金との共催事業の「にほんご人フォーラム事業」は2020年度より延期となったタイでの集合研修の実施が困難なため、東南アジア5カ国（インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア）国内で行う「にほんご人フォーラム」関連事業を支援し、共催で実施する。そのために、当該拠点の日本語専門家および日本語講師を対象としたセミナーを実施する。

また、（独）国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの「中学生高校生ビデオコンテスト」等中等教育レベルの日本語教育事業に助成する。

## C 基盤支援事業

財団の理念の実現を協働できるパートナーの発掘、支援、顕彰の場と考える。

### 1) 講演会・シンポジウム事業

2021年度は、アジアの文化、社会や異文化交流のみならず、グローバル人材の育成をテーマに、新たな講演会やセミナーを実施したいと考える。

グローバル人材を目指す中高生を対象としたオンラインでのレクチャーやセミナーを検討する。また、2022年1月に「かめのりフォーラム2022」をオンラインで開催する。

### 2) かめのり賞事業

第15回かめのり賞はかめのり大賞2部門（草の根部門、人材育成部門）、かめのりさきがけ賞、計4団体・個人までの顕彰をする。将来を見据えた、地道な努力で心の絆を深め、相互理解に貢献している団体・個人の活動を評価したいと考える。

## D その他

### 1) 広報活動の強化とネットワーク作り

ホームページやニュースレターの充実を図りつつ、当財団の事業、活動を広く海外へも広報するよう、「かめのりコミュニティ」の発行を年3回行う。また、引き続き広報活動全体の見直しを行い、ホームページの改訂を検討する。

奨学生および関係団体と継続的に関係をつなげるべく、ツールの見直しをし、データベースの

整備やかめのり財団の奨学生および財団事業に参加したOB・OGの同窓会・ネットワークの構築を検討する。

## 2)15周年記念事業の準備

2021年4月にかめのり財団設立15周年を迎えるにあたり、当初15周年記念事業を2021年度に実施する予定であったが、コロナ禍で2021年度の実施を見合わせ、2022年度の実施に向けて企画・立案するとともに、準備を開始する。

以上